



No. 1

精神保健福祉法に基づく通報文書作成における効率化を図る

(健康福祉部 衣浦東部保健所健康支援課こころの健康推進グループ)

○ 当保健所の**精神保健福祉法に基づく各種通報は年々増加傾向であり、平成24年度の通報件数は182件と全保健所の約3分の1**を占めている。

○ 各種通報に対する処理に際しては**多くの文書を迅速に作成する必要がある**が、通報の増加とともに、書類作成における所要時間が増え、記載誤りも多くなっていた。

1件の通報に対して、最大で30種類の書類を作成する必要があり、緊急措置診察等の緊急性の高い案件については、72時間以内に作成する必要があるなど迅速な書類作成が必要。

○ そこで、作成すべき文書の記載事項には重複する内容が多いことに着目し、対象者等の氏名、生年月日、住所などや医療機関の病院名や住所などの情報を入力することにより、**自動的に必要な各種書類を作成することができる「精神通報関係文書システム」(エクセル)を作成した。**

○ 同じ内容を複数回入力するという事務作業の手間が省かれることにより、従来のワードでの文書作成に比べて、書類作成の時間短縮が可能となるとともに、記載誤りが減少した。

○ 同じ事務を行う**全保健所**における利用促進を図るため、システムの**操作マニュアル**を作成した上で、**システムを提供した。**

< 参 考 >

◇ 精神保健福祉法

精神障害者の医療及び保護など国民の精神保健の向上を図ることを目的としており、都道府県知事の事務として、警察等からの通報に対して精神障害者に係る診察措置、入院措置などを行うことが規定されている。

1件の通報に対して、最大で30種類の書類を作成する必要があり、緊急措置診察等の緊急性の高い案件については、72時間以内に作成する必要があるなど迅速な書類作成が必要。

○ 精神通報関係システムの概要

情報入力シートと、各種通知文書や調査書などの様式シートをエクセルの一つのファイルで作成し、氏名や住所などの情報が様式シートに自動入力されるようにシートを連動させ、情報入力作業と文書作成作業を一括化した。

①個人情報シートに、通報者、本人及び家族情報などを入力

②各様式のシートに、個人情報シートで入力した情報が自動的に反映される

【外部アドバイザーコメント】

- 県民にとって緊急事態への対応は重要であり、そうした事務を迅速・正確に行うためのツールを新たに開発した点は高く評価できる。
- システムの利用による具体的な成果や課題をフォローアップし、システムの更なる改善や普及を図っていただきたい。



No. 2

飼料作物生産ほ場への電気柵設置などで効果3乗！
(農林水産部 農業総合試験場畜産研究部養牛研究室)

- 養牛研究室では、試験研究に用いる乳牛の飼料として、毎年、4.2ヘクタールのほ場で飼料用トウモロコシを栽培し、サイレージに調製して利用している。しかし、近年、場内にイノシシが出没するようになり、収穫直前のトウモロコシが被害を受け、収量が減少していた。
- その結果、飼料が不足して購入飼料で補うこととなったことから、イノシシによる食害被害防止によるトウモロコシの増産が緊急の課題となった。
- そこで、職員の自力施工により、ほ場の周囲約1,300mにソーラー発電による電気柵を設置した。
- その結果、イノシシによる食害が減少し、トウモロコシ収量は年間約100トン増加して、購入飼料費を削減することができた。
(購入飼料費削減額：約210万円/年(トウモロコシ増収分))
- また、電気柵の設置により、収穫後のほ場を利用した野草による牛の放牧が可能となり、ほ場を有効活用することもできた。
(購入飼料費削減額：約11万円/年(野草による放牧分))
- 電気柵の効果が実証されたため、イノシシ被害に悩む養牛農家にも電気柵の普及が期待できる。

< 参 考 >

○ ソーラー発電による電気柵



設置経費 218,250円

電気柵資材

- ・発電機、高張線、支柱
- ・廃材

○ トウモロコシ収量実績等の比較 (平成22年度～平成25年度)

単位トン

	H22	H23	H24	H25
総収量	105	83	184	204
増減		△22	101	20
平均	94		194	

約100トン増

○ 削減効果

飼料購入費の削減要因	効果額(円)/年
トウモロコシ増収(年間約100トン)	2,100,000
ほ場の野草を利用した牛の放牧	112,500
合計	2,212,500

【外部アドバイザーコメント】

- 電気柵の設置を外部委託ではなく、職員自ら努力して行ったことが大変素晴らしい。
- トウモロコシの収量増の実績や飼料購入費の削減効果が数値化されているため、取組の効果が分かりやすく、農家等への普及が期待できる。
- 他所属や県民の方が応用できるよう、取組内容(背景、工夫、効果のデータなど)を分かりやすくまとめて発信されたい。



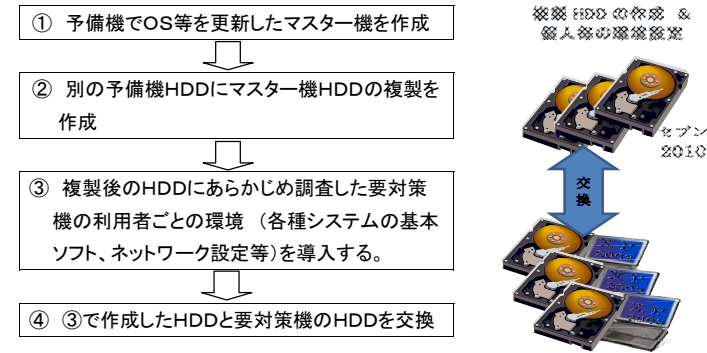
No. 3

予備機HDDを活用した手作業によるWindowsXP等の更新対策
(企業庁 管理部総務課電算グループ)

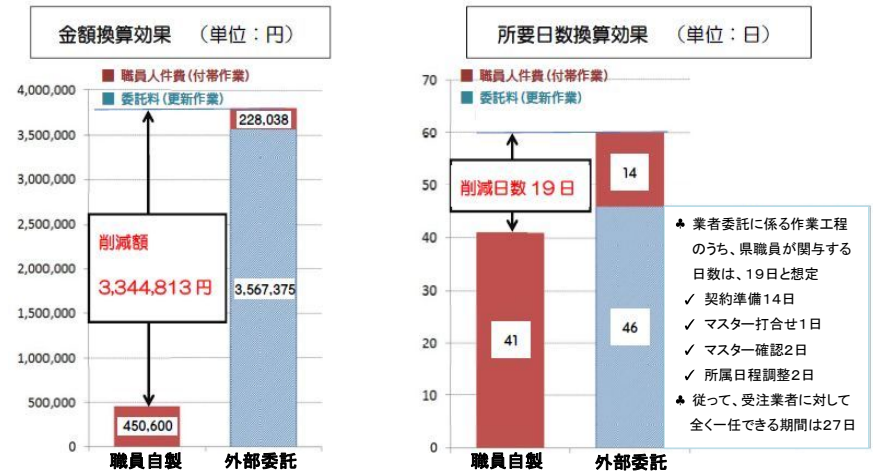
- マイクロソフトによるOS等 (WindowsXP、internet explorer6及び office2003) のサポート期限が平成26年4月に迫っていることから、セキュリティ確保のため、所属内職員の一人一台パソコンの要対策機 (企業庁内212台) について、OS等の更新を行う必要があった。
- OS等更新に伴う経費支出と業務への影響を極力少なくするため、通常は業者へ外部委託して行うOS等の更新作業について、既存のハードウェアを有効活用することにより、職員自らが手作業により効率的に行う方法を、試行錯誤を重ねて考案した。
- 具体的には、OS等の更新と、更新後に必須となるユーザー毎の環境設定 (各種業務システムやプリンタの接続設定等。従来は各パソコンの使用を中断して実施) を併せて、あらかじめ予備HDD (ハードディスクドライブ) に設定しておくことにより、HDDを物理的に交換することのみで対応できるようになった。
- この方法により、外部委託が不要となったため、委託料等が約330万円 (職員による作業も含めた所要日数換算では19日) 削減可能となるとともに、パソコン使用者の業務中断時間も極小化することができた。

< 参 考 >

○ 予備機HDDを活用したWindowsXP等の更新作業の手順



○ 削減効果



【外部アドバイザーコメント】

- 通常外部委託して行う「OS等の更新」を職員自らが努力して手作業により、効率的に行えるよう取り組んだ点が優れている。
- 経費等の削減効果がグラフで具体的に分かりやすく示されている点も評価できる。
- 「試行錯誤」の経験は、今後の類似の取組の効率化につながる。そうしたプロセスも含めて具体的な取組内容やノウハウを幅広く発信することを期待する。



No. 4

C² (シースクエア) 粉末の研究開発

(警察本部 西枇杷島警察署)

- 指紋検出の際に主に使用している**アルミニウム粉末**は、吸着力が強く、指紋を鮮明に検出できるが、**①素材によっては指紋以外の部分にも付着しやすい②飛散しやすく、現場を汚しやすい③採取後の拭き取りがしにくい、などの問題**があった。
- そこで、新たな指紋検出粉末を開発することとし、指紋の主な成分である**尿素と脂質に付着しやすい性質を持つ乳酸カルシウムに着目し、色素を乳酸カルシウムでコーティングしたC² (シースクエア) 粉末の研究開発**を行った。
- **C²粉末は、指紋に付着しやすく、その他のものに付着しにくい性質のため、①指紋の検出が容易である②飛散しにくいため現場を汚しにくい③採取後の拭き取りが簡単**である、などの利点がある。
- さらに、**④色素をコーティング**して作ることから、用途に応じた染色が可能のため、指紋が付着している素材と対照となる色で粉末を作ることにより、**指紋が見やすくなる**といった効果もある。
- 一部で試行しながら、実用化に向けた検証を行っているところだが、この粉末が広く実用化されればより効果的・効率的な鑑識活動が可能となる。

< 参 考 >

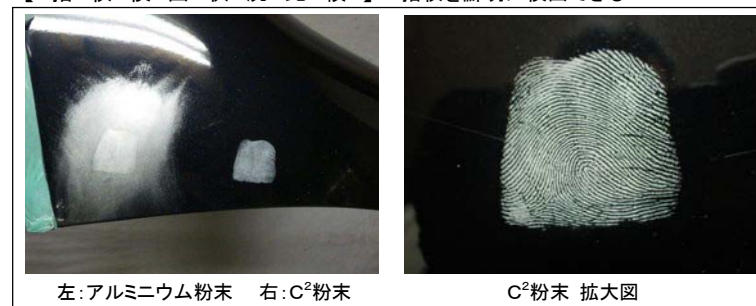
○ C² (シースクエア) 粉末

色素と乳酸カルシウム(コーティング剤)からなり、液化した乳酸カルシウムを色素にコーティングし、粉体化した粉末。

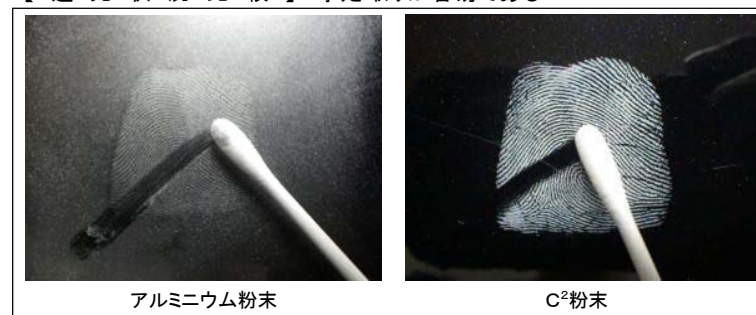
◇ 特長

- ①指紋に付着しやすく、その他のものに付着しにくい
- ②粉末が飛散しにくいいため、現場を汚さない
- ③拭き取りが容易
- ④用途に応じた染色が可能

【指紋検出状況比較】・指紋を鮮明に検出できる



【還元状況比較】・拭き取りが容易である



【外部アドバイザーコメント】

- 鑑識業務を行う職員が、現状に満足することなく、更に効果的・効率的な業務遂行につなげるための研究に取り組み、新たなアイデアを生み出した非常に素晴らしい取組である。
- 今後の本格的な実用化に向け、コスト削減など課題の克服や、科学的データの整理・検証等を着実に進められることを期待する。



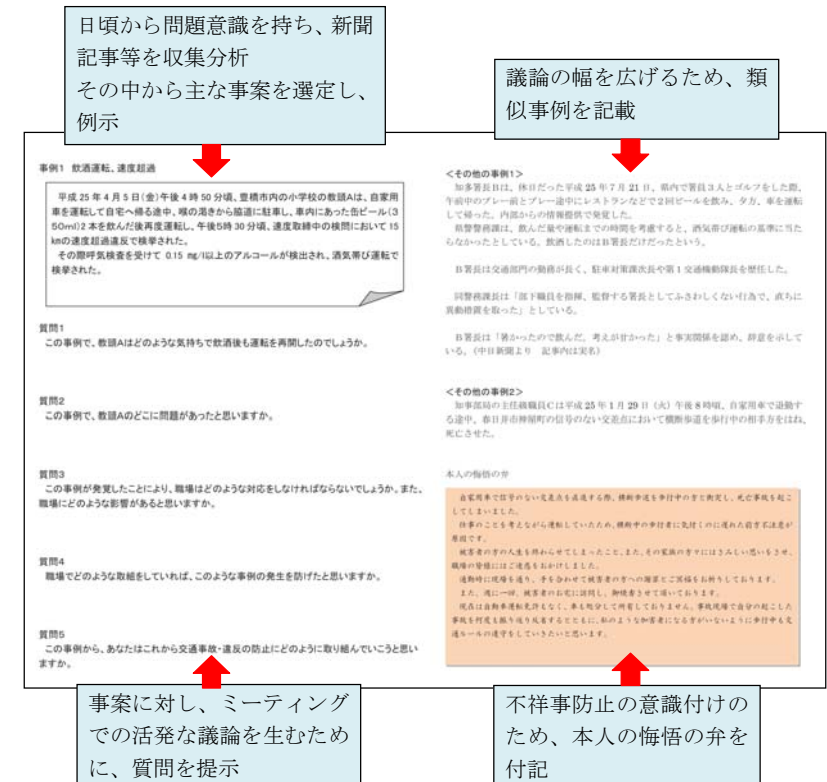
No. 1

不祥事再発防止のための職場内研修資料の作成
(農林水産部 東部家畜保健衛生所)

- 全庁において、平成25年9月12日から「不祥事再発防止運動～職員一丸となって再発防止へ～」が実施され、全ての職員が主体的に参加し、職員が一丸となって不祥事の再発防止に取り組むこととなった。
- そうした中、本所では、職場内職員の不祥事防止に対する意識向上のため、所属の全グループ班長を中心に不祥事再発防止チームを編成し、各職場で議論するための職場内研修会資料を作成した。
- 資料の作成においては、広く公務員が起こしてしまった不祥事を収集分析した上で、主な5事例を選出し、例示するとともに、活発な議論につながるよう、それぞれの事例に対して「どこに問題があったか」、「上司や同僚にできることはなかったか」等の問いを記載するなどの工夫をした。
- さらに各事案には、収集した類似の事例や本人の悔悟の弁を掲載し、さらに議論が広がるように工夫した。
- 資料を活用し、各グループで月1題程度を目安に、数ヶ月に渡り継続的にグループミーティングを行うことにより、不祥事に対する意識向上や職場内のコミュニケーションの活性化、気軽に話し合える職場の雰囲気づくりに役立った。

< 参 考 >

○ 不祥事再発防止のための職場内研修資料



○ 取組による効果

- ・ 新聞の回覧だけでなく、グループで話し合いをすることで、職場全体で不祥事防止へ取り組む機運が高まった。

【外部アドバイザーコメント】

- 職場全体で、一過性でなく、継続的にミーティングを行っている点は評価できる。
- 代表的な事例を基に問題提起する形にしたり、本人の後悔の弁を付けるなど、工夫した資料を作成した点も評価できる。
- 不祥事防止は継続が重要である。今後も職員が関心を持ってミーティングを続けられるよう、例えば、倫理的な問題事例や、各職場の業務に沿った独自の事例を取り上げるなど、運営や資料をさらに工夫されたい。